

保健体育科

主任：川本 往立

(1) 今年度の目標

- ① 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成
- ② 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上
- ③ 明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成
- ④ 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成

(2) 主な取り組みの計画

- ① 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成
 - ア 集団的活動や自己の身体表現などの活動を通じてコミュニケーション能力を育成する。
 - イ お互いに練習や作戦を考えたり、改善の方法などをお互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力を育む。
 - ウ 基礎的な運動の技能や知識を生徒の状況に応じて伸ばさせ、それらを活用することで、自らの運動課題を解決するなどの学習をバランスよく行う。
- ② 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上
 - ア 健康・安全について総合的に理解することを通して、健康・安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断に基づく意志決定や行動選択を行い、適切に実践していくための思考力・判断力などの資質や能力の基礎を培い、実践力を育成する。
 - イ 運動を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図る。
- ③ 明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成
 - ア 運動の実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質や能力を育てる。
 - イ 運動の実践を通して、健康の保持増進の実践力及び健やかな心身を育てる。
- ④ 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成
 - ア 健康についての理解を深めることで、生きがいを持ち、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにするように実践する。
 - イ 社会生活と健康についての理解を深めることで、自らの健康の管理や健康的な生活行動の選択及び健康的な社会環境づくりなどが実践できるようになるための基礎としての資質や能力を育成する。

(3) 授業アンケートの結果と分析

80%以上の生徒が運動量は「ちょうどよい」と感じているようである。また、約75%の生徒が、「上達するためにいろいろな練習方法が体験できた」と答えており、授業ではおおむね満足感を得られているのではないかと思われる。ただ、体力が向上したと感じている生徒は、約50%、生涯を通じて健康的な生活ができる能力が身に付いたと答えた生徒は、約60%と、自ら実践できている生徒は多くはないので、これからの課題として、この数字を伸ばすことに取り組んでいきたい。

(4) 今年度の成果と課題

- ① 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成
 - ア お互いに協力して活動することはできている。お互いのコミュニケーションもよく取れている。今後もこの調子で取り組んでいきたい。
 - イ お互いに練習や作戦を考えるために、まずは基本的なことを身につける必要がある。基礎・基本を習得させないとお互いに話し合う活動などは難しい。今後授業において、基本的なこと

を習得する時間を増やす必要がある。

- ウ 生徒が自らの運動課題を解決するまでに至っていない。もう少し多くの方向から基礎的な運動の技能や知識を身につけさせ、自らの運動課題を解決できる力を養っていきたい。
- ② 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上
 - ア 健康については理解を深めているが、安全についての認識が少ないようである。今後もっと多くの知識を身につけ、健康・安全の課題に直面した場合の正しい判断での意志決定や行動選択を行える実践力を育成する必要がある。
 - イ 運動は積極的に実践できている。運動を通して自然に自分の体力の向上を図ることができ、心身の調和的発達を図れている。今後もこの調子で取り組みたい。
- ③ 明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成
 - ア 運動の実践は積極的に実施することができ、何らかの運動を生涯のスポーツライフに取り入れることにつながると感じられる。選択肢が多くなるようさまざまなことにチャレンジしてほしい。
 - イ ほとんどの生徒が運動を通して、健康の保持増進、健やかな心身を育てるということができている。将来の活力ある生活につなげていってほしいと考える。
- ④ 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成
 - ア 健康についての理解を深めることはできたが、それを現在及び将来の生活に結びつけるまでには至っていない。今の自分が健康であり、健康を管理するために何をしなければということを考えるのはなかなか難しいようである。理解はできているが実践する段階の危機感は感じられない。
 - イ 社会生活と健康についての理解も深めることはできている。これからは、自ら健康の管理をし、健康的な生活行動や健康的な社会環境づくりなどを実践するために何をしなければならぬいかをもっと深めて考えていく必要がある。